

2024年5月21日
日本メジフィジックス株式会社

PET 検査用放射性医薬品「アキュミン®静注」 薬価基準収載

日本メジフィジックス株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:富ヶ原 祥隆)は、PET 検査用放射性医薬品「アキュミン®静注」(一般名:フルシクロビン(¹⁸F)注射液、以下、本剤)が、5月22日付で薬価基準に収載されることとなりました¹⁾のでお知らせします。

本剤は、「初発の悪性神経膠腫が疑われる患者における腫瘍の可視化 ただし、磁気共鳴コンピューター断層撮影検査による腫瘍摘出計画時における腫瘍摘出範囲の決定の補助に用いる。」を効能又は効果として当社が2021年3月に製造販売承認を取得したPET 検査用放射性医薬品です。

現在の神経膠腫の診療では、第一選択として腫瘍摘出術が選択されますが、予後の改善のために神経機能の温存を図りつつ可能な限り多くの腫瘍を摘出することが原則とされています。実際に、神経膠腫のうち最も予後が不良な膠芽腫において、摘出度に応じて段階的に予後が良好になるという結果も報告されています²⁾。

本剤は、アミノ酸トランスポーターを介してアミノ酸代謝の盛んな腫瘍に取り込まれるという特性を有していることから、腫瘍組織と正常組織のコントラストを利用し、腫瘍を可視化することができます。悪性神経膠腫の摘出術における腫瘍摘出範囲は、磁気共鳴コンピューター断層撮影画像に基づき決定することが現在標準的ですが、上記特性を有する本剤を用いたPET 検査により、腫瘍摘出範囲の決定に有用な情報が追加されることが期待されています。

当社は、全国のより多くの医療機関に本剤をお届けできるよう生産体制を整備してまいります。本剤によるPET 検査が一日も早く普及し、悪性神経膠腫の患者さんの予後やQOLの改善に貢献できることを期待しています。

【アキュミン®静注について】

製品概要

販売名	アキュミン®静注
一般名	フルシクロビン (¹⁸ F) 注射液
効能又は効果	初発の悪性神経膠腫が疑われる患者における腫瘍の可視化 ただし、磁気共鳴コンピューター断層撮影検査による腫瘍摘出計画時における腫瘍摘出範囲の決定の補助に用いる。
用法及び用量	通常、本剤1バイアル(87~270MBq)を静脈内投与し、投与10~50分後にポジトロン断層撮影法により撮像を開始する。

【PET 検査について】

放射線を放出する微量の薬剤を患者さんに注射し、薬剤が病気の患部に集まる様子を体外から撮影することにより、病気の状態を診断する画像検査法の一つです。悪性腫瘍等の診断に有用とされており、全国約400施設の医療機関で診断が行われています。

- 1) 令和6年5月21日 厚生労働省告示第201号
- 2) Sanai N, Polley MY, McDermott MW, Parsa AT, Berger MS. An extent of resection threshold for newly diagnosed glioblastomas. J Neurosurg. 2011;115(1):3-8.

日本メジフィジックス株式会社について

日本メジフィジックスは、創業以来 50 年にわたり放射性医薬品の研究開発、安定供給、適正使用の普及に取り組んでいます。当社は、「核医学で、健やかな社会を創る」というパーパスのもと、放射性同位元素を用いた分子イメージング技術により、患者さん一人ひとりにより最適な医療が提供される社会を目指しています。

Web サイト: <https://www.nmp.co.jp/>

本件に関するお問い合わせ先:

日本メジフィジックス株式会社 総務部広報グループ
Tel: 03-5634-7006 E-mail: nmp_press@nmp.co.jp